

平成30年2月2日

教職員

各位

大学院生

医学系研究科長

医学獣医学総合研究科長

大学院特別セミナーの開催について（通知）

標記のことにつきまして、下記のとおり開催いたしますので御出席ください。
なお、大学院生については、当日出欠の確認をしますので御承知おきください。

記

日時：平成30年2月9日（金）18:00～

場所：宮崎大学医学部総合教育研究棟1階 プレゼンテーションホール

講師：小路 武彦
（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻
組織細胞生物学 教授）

演題：「細胞単位でのゲノム／エピゲノム解析法の最近の進歩」

講演内容：細胞増殖・分化・死からなる細胞動態の制御状態を正確に把握するためには、細胞単位で特異的な遺伝子の発現及びその制御機構に関する理解が不可欠である。このためには、セントラルドグマを構成する物質の解析が必要であるが、最終生産物のタンパクは免疫組織化学により、また mRNA の発現検討には非放射性 in situ hybridization (ISH) や laser microdissection が威力を発揮する。また遺伝子局在位置の同定には in situ PCR が有効であり、更に転写調節因子や翻訳調節因子の動態は southwestern 組織化学で解析される。一方で最近、エピゲノムによるクロマチン構造の制御が細胞動態を理解する上で注目されており、DNA メチル化及びヒストン修飾状態とその意義を解明する必要性が日増しに高まっている。我々も、DNA メチル化には特異的塩基配列部位を解析する HELMET 法を新たに開発し、またヒストン修飾には免疫組織化学と共に修飾酵素活性や発現の人為制御による影響の検討を試みている。本セミナーでは、これらの方法論の原理や応用能力に関して、特に規則的且つ連続的なクロマチンの凝集過程である精子形成過程を解析例として御紹介したい。